

「自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.26

秋分の日の花 Flowers in autumnal equinox」

2020年9月22日

今日9/22は秋分の日。昼間と夜の時間が同じ日で、暑かった夏が終わり、これから冬に向かって行く峠のような日である。今日の東京日の出と日の入りの時刻を知ってますか？ 5:29から17:38（12時間9分）←本当？ 9分の誤差が気になる方は確かめられたい。

秋分の日には彼岸とも言われ、あちこちにヒガンバナが咲きそろう。明治の文豪・徳富蘆花が100余年前に晴耕雨読の生活をしていた芦花恒春園にも真っ赤な花（別名・曼珠沙華）が満開であった。最近、白や黄色のヒガンバナを見かける。さらに、ピンクや紅色で花卉がやや幅広い華やかな西洋ヒガンバナにも出会う。調べてみると、学名はすべてリコリス(Lycoris)で、同じ科であることが分かった。英語名は spider lily(花の周りに出ているヒゲが蜘蛛の足に見えるから)、cluster amaryllis（花がクラスターとなっているアマリリスの様）、hurricane lily（ハリケーン／台風の多い時期に咲くユリの様）、宗教と関係のない名で呼ばれている。

秋分近くには多くの花が咲き、春とは違った佇まいの優雅で落ち着いた花々に出会え、心が癒やされる。今回はその中から3種、清楚な白色のタマスダレとガウラ（白鳥草）と薄ピンクのノウゼンカヅラを取り上げる。

次号では、万葉時代の「秋の七草」に注目したい。

http://sengawacx.com/LookNatureNo26_2020.jpg
